



日本生活科・総合的学習教育学会 第30回全国大会 静岡〔富士山〕大会

●大会テーマ

持続可能な社会の 創り手を育む生活・総合

第2次案内

後援

富士市教育委員会

研究実践校

富士市立岩松北小学校

静岡サレジオ小学校

富士市立田子浦幼稚園

富士市立岩松幼稚園

協力校

静岡県富士見中学校・高等学校

オンライン会場:

富士市教育プラザ

富士市八代町 1-1

アクセス日時 令和3年6月19日(土)10:00～15:15

オンライン大会

日程

6月12日(土)～6月23日(水)	電子掲示板を利用	自由研究発表
6月19日(土)	10:00～11:30	課題別研究発表
	13:00～13:10	全体会
	13:10～15:10	パネルディスカッション
	15:10～15:15	閉会行事

自由研究発表 電子掲示板による発表および議論(6月12～23日)

110 本の発表を **29** のグループに分けて構成しています。

課題別研究発表 10:00～11:30

3枚目に詳細を添付いたしました。ご覧いただけると幸いです。

全体会・パネルディスカッション・閉会行事 13:00～15:15

全体会 ごあいさつ

日本生活科・総合的学習教育学会会長 朝倉 淳(安田女子大学教授)

第30回全国大会静岡〔富士山〕大会会長 梅澤 収(静岡大学教授)

パネルディスカッション 「持続可能な社会の創り手を育む生活・総合」

●パネラー

浅羽 富大(富士市立岩松北小学校教諭)

大石 久美子(富士市立田子浦幼稚園園長)

和田 精吾(富士市立富士第一小学校校長)

●コーディネーター

田宮 縁(静岡大学教授)

●コメンテーター

朝倉 淳(日本生活科・総合的学習教育学会会長)

閉会行事 次期開催地あいさつ

パネルディスカッションの趣旨

国内で拡大する貧困と格差、気候変動や生物多様性の喪失など慢性的な危機の解決は、社会で考えなければならない喫緊の課題です。また、2019年の新型コロナウイルス感染症の対応をきっかけに、社会全体が急性的な危機に対しても無防備であることが露呈しました。もちろん、学校も例外ではありません。

静岡(富士山)大会実行委員会では、「持続可能な社会の創り手を育む生活・総合」をテーマに、3年以上も前から、学校だけでなく、行政、地域との協働で全国大会の準備を進めてまいりました。テーマの決定や開催地の選定には、以下の3つの背景があります。

- ① 平成29年改訂の学習指導要領の前文に、「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された。1980年代に持続可能な未来をめざした教育思想として登場したESDは、ホリスティック・アプローチを主眼としており、生活科、総合的な学習の時間、そして、幼児教育とも親和性が高い。
- ② 富士市には、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会でESDの推進拠点と位置付けられている「ユネスコスクール」富士市立岩松北小学校があり、そこから輩出される教員が他校においても総合的な学習の時間を牽引し、好循環を生み出している。また、幼児教育分野でも質の高いESDが実践されている。
- ③ 富士山というロケーションだけでなく、交通の便やホテルの室数などのコンベンションに適した土地であるとともに、学校・行政・地域の協力体制が構築されており、子どものモデルとなる大人が主体的に考え、行動する雰囲気地域全体にある。



パネルディスカッションでは、実践報告の後、実践者、そして校長として岩松北小学校のESD、総合的な学習の時間を推進してきた和田精吾大会実行委員長から、2013年のユネスコスクールへの加盟に至った過程やESD、総合的な学習の時間の魅力、学校や地域の状況をお話していただきます。また、人事異動などでESD推進の勢いが衰えるユネスコスクールも少なくない中、小学校や幼稚園でESDの光を絶やさない背景について、オフラインで参加予定の現校長や行政担当者などからの話もうかがいながら、ESDという切り口から生活科・総合的な学習の時間の理念にせまりたいと考えています。

オンラインでのご参加の皆様にはチャット機能をご使用いただき、会場チャット担当者の采配により、適当なタイミングで議論に参加していただくようにいたします。そして、最後に日本生活科・総合的な学習教育学会 朝倉 淳会長より、パネルディスカッションへのコメントをいただきます。

「全国幼児教育 ESD フォーラム2020」バーチャルフォーラムのオンデマンド配信も参考にしていただけると幸いです。

<https://knotworklab.com/forum/esdforum2020/>

○第3分科会「持続可能な社会をめざした産業と教育」

報告2「紙のまちにある幼稚園として未来につなげていくもの」(10分程度)

富士市立田子浦幼稚園

○口頭発表(5分程度)

「探究する子の育成を目指す生活科・総合的な学習の時間(けやき学習)」

富士市立岩松北小学校

「SDGs達成に向けた教科学習・探究学習」 静岡サレジオ小学校

「表現豊かな子をめざして」 富士市立岩松幼稚園

(文責:コーディネーター 田宮 縁)

日本生活科・総合的教育学会第30回静岡大会課題別研究発表一覧【案⑩】 2021.4.9段階

静岡大会テーマ：持続可能な社会の創り手を育む生活・総合

課題別研究発表 2021年6月19日(土) 10:00～11:30

【趣旨】●新学習指導要領の全面実施が年次進行し、2021年度は、小・中学校では生活科及び総合的な学習の時間で新しい学習評価が行われていきます。●高校では、総合的な探究の時間の一層の充実に向け、探究の在り方を考えるとともに、そこへ接続する中学校の授業改善が併せて必要です。●特別支援学校では、同じく小中高等部で順次全面実施が進み、各児童生徒の状況に応じた個別の指導計画等の見直しが必要です。●R3.1.26には、「令和の日本型学校教育」をの構築を目指した中央教育審議会答申が行われ、新学習指導要領の着実な実施を進めるため、個別最適な学びと協働的な学び、GIGAスクール構想、SDGs・STEAM教育その他の教育課題への取組を積極的に進めることが求められているところです。●そこで、静岡大会の課題別研究発表では、それらの課題解決に向けた生活科及び総合的な学習（探究）の時間の在り方を、実践者・研究者の事例や理論をもとに協議いたします。

部 会 番 号	テーマ	コーディネーター 上段：司会役 下段：コメンテーター役	発表者・登壇者等	運営担当者 上段：研究企画部部会担当 下段：ZOOMホスト担当
1	ポスト・コロナを見通し、資質・能力の育成に向けて学校全体でカリ・マネをすすめていくためにはどのようにすればよいか	鈴木 美佐緒 (宮城県仙台市立荒町小学校) 猪股 亮文 (宮城教育大学)	村川 雅弘 (甲南女子大学) 嶋崎 修 (山梨大学) 大谷 敦司 (山形県天童市立天童中部小学校) 三田 大樹 (東京都西東京市立上向台小学校)	鈴木 美佐緒 (宮城県仙台市立荒町小学校) 田邊 玲子 (大分県教育委員会)
2	コロナ禍の生活科の授業で、直接体験を重視し表現活動の充実をどのように図るか	石井 真澄 (大分県大分市立判田小学校) 齋藤 博伸 (文部科学省)	大山 夏生 (愛知教育大学・岐阜聖徳学園大学) 甫仮 直樹 (新潟県上越市立大手町小学校・ 上越教育大学教職大学院)	石井 真澄 (大分県大分市立判田小学校) 福田 英隆 (大分県教育委員会)
3	育成を目指す資質・能力を踏まえて、評価規準をどのように設定し評価するか	宗形 潤子 (福島大学) 金 洋輔 (新潟大学)	緑川 敏之 (福島県立ふたば未来学園中学校) 松村 英治 (東京都大田区立松仙小学校)	宗形 潤子 (福島大学) 生野 貴司 (大分県大分市教育委員会)
4	直接体験を充実し、ICTの活用による探究の広がり・深まりをどのように実現するか	後藤 竜太 (大分県教育委員会) 南 正敏 (神奈川県秦野市立西小学校)	山崎 晋太郎 (京都府京都市立元町小学校) 三星 雄大 (新潟県新潟市立新潟小学校) 森江 一史 (熊本県熊本市教育委員会)	後藤 竜太 (大分県教育委員会) 吉武 諒 (大分県大分市立頌田学園)
5	地域活性化を目指し、どのように産学連携による探究の広がり・深まりを実現するか	廣瀬 志保 (山梨県総合教育センター) 取釜 宏行 (広島県立大崎海星高等学校)	久常 宏栄 (岡山県立和気閑谷高校) 茂木 和佳子 (新潟県立六日町高校・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)	廣瀬 志保 (山梨県総合教育センター) 堂脇 真理子 (大分県立大分支援学校)
6	個別最適な学びと協働的な学びを生活科・総合的な学習（探究）の時間においてどのように実現していくか	四ヶ所 清隆 (福岡県久留米市教育委員会) 松田 淑子 (日本大学)	齋藤 淳 (福岡教育大学附属福岡小学校) 宮迫 隆浩 (鹿児島県鹿児島市立伊敷中学校) 山下 真司 (リクルート Ed-tech総研)	四ヶ所 清隆 (福岡県久留米市教育委員会) 鳥羽篤志 (大分県大分市役所)
7	持続可能な社会の創り手を育む生活科・総合的な学習（探究）における学び続ける教師	原田 正裕 (静岡県吉田町立中央小学校) 福島 潤子 (静岡県富士市立神戸小学校)	原田 卓 (静岡サレジオ小学校) 溝口寿子、小長谷幸代 (静岡県富士市立岩松幼稚園)	田宮 緑 (静岡大学) 武藤 寿彰 (静岡県静岡市立城山中学校) 深澤 邦洋 (静岡県立静岡城北高等学校)